

降誕節第6週 聖餐礼拝

2019年2月3日 第一礼拝(午前8:00～) 聖餐礼拝(午前10:30～) 夕拝(午後7:30～)

前奏	(新聖歌41)		
聖餐の招詞	司会者	同
※賛美	新聖歌46「わが主よ 今ここに」	—	同
聖書交読	交読文53「ルカの福音書第22章」	—	同
祈禱	司会者	同
分餐	(新聖歌53)	—	同
感謝の賛美	新聖歌477「原に若草が」	—	同
聖書朗読	『ルカの福音書』4章31-44節(新約115頁)	司会者	同
黙想	—	同
説教	「イエスのいちばん長い日」	近伸之牧師	
※応答の賛美	新聖歌349「移りゆく時の間も」	—	同
感謝の献金	(新聖歌58)	—	同
感謝祈禱	横堀 正美兄	
諸報告	司会者	
※頌栄の賛美	新聖歌60「天地こぞりて」	—	同
※派遣の賛美	新聖歌54「主の祈り」	—	同
※祝福の祈り	近伸之牧師	
※後奏	(新聖歌59-7)		

(※印は、からだの不自由な方以外はご起立ください)
(機械演奏の場合、楽譜にない表現をする事もあります)

第一礼拝	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山 勝三兄 献金：沼田佐代子姉	聖餐準備：伊東 一馬兄 配餐：伊東 一馬兄
司集	会：近伸之牧師 会：長谷川睦子姉 山岸あけみ姉	映像・音響：山崎 敬典兄 配餐：伊東 一馬兄 説教の録画：近伸之牧師	C S 担当：近伸之牧師 ※掃除当番は右表参照

説教メモ

1. 会堂での悪霊追放から、翌朝の祈りのときまで、ルカは息をつかせぬ筆致でイエスの一日を描く。その中心にあるのは、形骸化していた安息日および礼拝に、命を再び吹き込んでゆくイエスの姿である。
2. 悪霊につかれた人は、墓場にもいれば(8:27)会堂にもいる(33)。狂人のような生活もたらせば一般人として虚飾の中に閉じ込めもする。しかしこの日、力なき古き礼拝は、力ある新しき礼拝へ転換した。
3. シモンのしゅうとめのいやし、日没後の人びとのいやしは、安息日の慣習からの解放と訣別を表している。そして翌朝、福音の宣明があらゆる奇跡や奉仕に優先することが、主自らの口から語られた(43,44)。恐れずに福音を伝えること、その出発点が主日礼拝。イエスの一日が礼拝の一時間に凝縮されている。

今週の暗唱聖句

「神に信頼し 私は何も恐れませんが、人が私に何をなし得るでしょう。」 (『詩篇』56篇11節)

[敬和学園の学生用] 牧師のサイン ()

個人、団体からの来信

2019年2月3日

「世の光」第821号 / 「PBA On-Air!」no.11 /
2019年春の聖ヶ丘バイブルキャンプのご案内 /
齋藤五十三宣教師ご家族より感謝のハガキ / 宣教区会議に向けて追加資料

先週の集会出席者数

1/27(日)	教会学校	幼児男子1 小学男子— 中学男子— 高校男子— 男児計1 成人男性— 幼児女子2 小学女子2 中学女子— 高校女子— 女児計4 成人女性1
	第一礼拝	男2 女3 ※月に一回、書道教室を開催。
	歓迎礼拝(子ども)	男12 女14 1/28(月) 月曜家庭集会 (休会) 男児1 女児4 1/30(水) パルナバ祈禱会 男4 女6
	夕拝	男1 女1 2/1(金) シャベリ場夕ビタ 男— 女4 2/1(金) 金曜祈禱会 男1 女2

諸集会のご案内

書道教室	※月に一回、書道教室を開催	
月曜家庭集会	2/4(月) 午後8:00	山崎岩雄兄宅
ネヘミヤ祈禱会	2/6(水) 午後7:30	教会堂 司会：片山 初子姉
シャベリ場夕ビタ	2/8(金) 午後1:30	渡邊智子姉宅 問合せ先：小山 千春姉
金曜祈禱会	2/8(金) 夜	教会堂

2/10(日) 降誕節第7週

第一礼拝 午前8:00	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山 勝三兄 献金：沼田佐代子姉
教会学校 午前9:00	担当：佐藤 繁実兄	
第二礼拝 午前10:30	司会：伊東 一馬兄 集会：山岸あけみ姉 横堀 信子姉	音響・映像：片山 浩司兄 感謝祈禱：渡邊 智子姉 説教の録画：近伸之牧師 ※掃除当番は下表参照
教会学校奉仕	2/3[近牧師] 2/10[佐藤兄] 2/17[片山姉] 2/24[近牧師] 3/3[佐藤兄]	
掃除当番順	2/3[有志] 2/10[片山姉] 2/17[小林姉] 2/24[小山姉] 3/3[笹川姉]	
主日の予定	※ラフソフ聖歌隊練習	午後4:00～6:00 日基・新潟教会
夕拝 午後7:30	司会：近伸之牧師 説教	礼拝箇所 『ルカの福音書』4章38-44節

報告

1. 礼拝の感謝
聖餐礼拝の恵みを感謝いたします。いただいたみことばをかみしめて歩みましょう。
2. 冬期のそれぞれの守りのため
1月が終わり、雪の影響は昨年ほどありませんでしたが、インフルエンザの影響は例年に増えています。ご高齢者から幼子まで、体調と日々の歩みが守られるように祈りましょう。
3. 個人消息
先月26日、小山千春姉のお義母さま小山キミさまが、心不全のため急逝されました。ご遺族に主の慰めがありますように祈りましょう。
- 4.

こんなテレビの時代劇がありました。検校といいましたら、盲人の方の偉い位の人だったわけですが、一人の検校に殺人の疑いがかかります。この犯罪はこの検校がやったのに相違ない。ところがまた、この犯罪はどうしても目が見える者にしかできない犯罪だ。そこで、刑事ならぬ町奉行は、はたと行き詰まってしまうんです。ところでこの検校は面白い趣味を持っていて、部屋の中で鯉を飼う癖がある。この鯉が、ドラマの節目節目で意味ありげにバシャンバシャンとはねるんです。町奉行はハッと気がつきました。この検校、じつは目が見えていたのですが、目に鯉のウロコをはめこんで盲人を装っていた、というわけなんです。そこで、検校は御用になる。目からウロコが落ちて一件落着というわけです。これはシャレに過ぎませんが、しかし私たちの人生においても、「目からウロコ・・・」ならぬ、心の目が開かれるという体験は貴重だと思います。

新約聖書の多くの部分を書いたパウロという偉大な伝道者は、イエス・キリストの福音を伝える器となる前は、それとは正反対にキリスト教徒を迫害していたのです。それはパウロが今まで信じていた、「人は律法——神の法律を忠実に守り行なうならば救われる」というユダヤ教の熱心な信奉者でしたので、十字架につけられた、のろわれた人、イエスとかいう男を信じるキリスト者は間違った教え

を信じている危険な群だ、として、キリスト者を迫害していたのです。

ところが、ダマスコという町を進軍しておりましたときに、天からの強い光が彼を照らし、パウロは地面に倒れてしまうんです。そしてそのとき、復活の主、イエス・キリストの声を聴き、つまりは、イエス・キリストに出会うのです。そして彼は三日間、目が見えなくなりました。その三日間で彼は考えました。そしてわかったのです。人は律法を守ることによってではなく、死んでよみがえられたイエス・キリストを救い主として心にお迎えするとき、救われるということです。パウロはまったく新しい人生に入りました。そのときのことを聖書はわざわざ、「目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった」と記しているんです（使徒9：18）。

180度人の生き方が変わる、ということが私たちの人生にはありますが、パウロはまさにそういう人でした。芸術であれ、スポーツであれ、学問であれ、実業であれ、どんな世界にも「開眼」ということはあり、それぞれの道で飛躍的に進歩発展するということはあると思います。しかしパウロの場合は、死に至るまで変わらぬ強い回心であり、確信でありました。それは神様からの特別な恩寵の中に守られ導かれていたからです。あなたにとっての人生の開眼、いかがでしょうか。

立春の雪白無垢の藁家かな
川端茅舎



二十四節気は一年を二十四に分けたもので、立春はその一つ。節分の翌日にあたり、新暦の二月四日ごろ。暦の上ではこの日から春になる。寒気のなかにもかすかな春の兆しを感じられる。



毎週土曜日 朝5:15~5:45 BSNテレビにて放送中
☆24時間テレホン『でんわ世の光』025(272)3592



2/2, 9(土)「新しい歌を主に」
小坂 忠さん、高 叡華(小坂叡華)さん

ミクタムレコードは1978年7月に日本初のゴスペル専門レーベルとして設立されました。以来40年ミクタムは、クオリティの高い作品を企画・制作し続けてきました。昨年の8月に行われた「ミクタム設立40周年記念感謝祭」の様子をお届けするとともに、設立者でシンガーソングライターの小坂忠さんとプロデューサーの高叡華(小坂叡華)さん夫妻とお話を伺います。

Broadcast for Expanding Gospel into Niigata
BEGIN。ここから始まるあなたの伝道。

豊栄キリスト教会は、ライフラインを祈りと献金で支援しています。

2018年度教会目標 「弟子の覚悟をもって」

「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません」

(『ルカの福音書』14章27節)

日本同盟基督教団 新潟山形宣教区
豊栄キリスト教会 (牧師 近 伸之)

〒950-3322 新潟県新潟市北区嘉山3-11-15

TEL: 025-387-4934 FAX: 025-250-0155

ホームページ: <http://www.toyosakakyokai.net>

電子メール: info@toyosakakyokai.net

ブログ: <http://www.toyosakakyokai.sblo.jp>

